

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0150280089		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム 徳洲苑なえぼ		
所在地	札幌市東区北7条東18丁目105-23		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>いつも笑顔や笑い声があり、明るく家庭的な雰囲気作りに努めている。                  広々とした空間の中で、入居者様が自由に生活が出来る場所。                  平屋造で自由にユニット内を往来でき、入居者や職員同士も仲良く生活できている。</p>
---

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0150280089&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0150280089&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療法人が経営する木造平屋建て2ユニットのグループホームである。同敷地内に同法人の介護老人保健施設があり、行事や避難訓練、内部研修などで協力し合っている。建物内部は広く、ワンフロアなので見通しが良く、ユニット間の行き来も容易であり緊急時の職員の協力体制も期待できる。共用空間には、季節の装飾、利用者の習字の作品などが飾られ、家庭的な雰囲気であり、レクリエーションの品や雑誌なども用意されている。浴室、トイレ、洗面台も広くて使いやすく設備が整っている。家族が頻繁に事業所を訪問してくれるほか運営推進会議にも多数の家族が参加している。法人でも毎年家族アンケートを実施しているので家族と事業所とのコミュニケーションは良好である。毎月の職員会議では、出席できない職員の意見を事前に聞き会議に反映させている。個人面談も毎年行われており、職員の定着率は高い。また、理念の共有化や重度化に対する書類の整備など外部評価に対する取り組みに積極的である。老健施設と共同の年2回の夜間想定避難訓練に加えて事業所独自の自主訓練を年1～2回行い、隣接のマンション住人や連合町内会とは緊急時の対応について理解を得、職員の定期的な救急救命訓練や備品も整備されているなど災害に対する意識も高い。</p>
--

サービスの成果に関する項目(ユニット朝日アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気大切にします。地域に根ざし、豊かに暮らせる環境を大切にします。自分らしく健康に暮らせる生活を大切にします。を掲げ、家庭的な雰囲気とそれぞれの個性を尊重するよう努めています。	地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム理念を玄関と各ユニットに掲げ、毎月のスタッフ会議で確認し合っている。また年度初めに、現在の理念がホームの理念として適切かどうかを話し合っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	連合町内会とは交流を密にし、お互いの催し事には声を掛け合い交流が来ている。	連合町内会の夏祭りには職員が積極的に参加している。事業所と隣接した同経営の老健施設と共同の夏祭りには連合町内会の方に参加してもらっている。近隣の幼稚園児や小学生、中学生との交流もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で毎月多種多様の講演会を開催し、その中で認知症を取り上げ、認知症についての理解を深めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し皆様からの意見をいただきサービスの向上に努めている。	連合町内会の役員や地域包括支援センター職員、多数の家族が参加し、近況報告や行事、外部評価などについて話し合っている。消防署の職員に火災について話をしてもらうこともある。議事録は家族全員に送っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時は連絡を取り合い、情報や助言をいただいている。	管理者は区の管理者会議に毎回参加している。地域包括支援センターの職員には毎回運営推進会議に参加してもらい、アンケートにも協力している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で「切迫性・非代理性・一時性を理解し、必要に応じてカンファレンスを行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	「安全対策身体拘束マニュアル」があり、職員は、全員が身体拘束について法人の研修に参加できる。また、外部研修に参加できる機会があるが、研修内容を全職員で共有化する仕組みはない。	身体拘束も含め外部研修に参加した時は会議で報告したり、資料を全員で確認するなどの取り組みを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が、研修で学んだことを伝達し全員に周知するようにしている。あざ報告書を通じて不自然なあざが無いかを意識するようにしている。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階では該当者がいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分納得をして頂き契約をしている。また、疑問、質問が生じたときには納得していただけるよう対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時の会話の中から意見をいただき、反映させている。	家族が頻繁に訪問してくれるのでその都度意見を聞いており、運営推進会議には毎回多数の家族が参加している。議事録は全家族に送付している。また、法人で毎年家族アンケートを実施している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のスタッフ会議等で意見を求め反映させている。	同法人の老健施設と共同で、教育、リスク、感染の各委員会を組織し、職員が参加して意見を交わしている。毎月の職員会議では出席できない職員の意見を事前に聞き反映させている。個人面談も毎年行われ、職員の定着率も高い。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議や個別面談を行ない、働きやすい環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容を吟味し条件に合った研修には極力参加できるようにしている。また、代表者が研修で学んだことを伝達できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全市や東区で行なわれる集会には出来る限り参加し、同業者との交流やサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の取り巻く環境を知り、本人の希望や話を傾聴し、安心して生活出来るよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初めにご家族と面談し、悩み、不安、要望等の把握に努め、良い関係ができるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人やご家族の意見を尊重しながら、出来る範囲内で対応するように努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事やその他の作業を、職員と一緒にすることでよい関係作りが築けている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族と情報交換を密にすることにより、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>気軽に立ち寄っていただけるよう努めている。</p>	<p>利用者の知人や友人、近所に住んでいた方が訪問してくれる際はゆっくり話をしてもらっている。墓参りや法事の際は家族にも協力してもらい、外出できるように支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士協力して、会話やレクリエーション、作業等を通じて、信頼関係の構築に努めている。</p>		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご家族をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から聞き取りをし一人ひとりの思いを重視するようにしている。	昨年の「目標達成計画」で、利用者の生活歴で新たに得られた情報をフェイスシートなどに追記し、全職員が共有化できる仕組み作りを計画したが、その後の進捗状況は十分とは言えない。	昨年に引き続き、取り組みを期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの本人の暮らしや性格に合わせた環境づくりに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意志を尊重し、自由な時間を過ごせるように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、他職種と情報交換を行い、本人が目標達成できるよう日々努力している。	利用開始時から1～2週間を目途に介護計画を作成し、状況が落ち着くまで毎月見直し、安定した時点で3ヶ月毎に計画を見直している。モニタリングには家族にも参加してもらい意見を反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや記録、ケアプラン会議等で情報交換を行い、実践、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	試験的なサービス内容など状況に応じ、日々変化できるケアプランの作成に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力を得ながら一緒に花壇づくりを行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、納得の下適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の訪問診療が毎月1回、訪問看護が毎週1回あるが、かかりつけ医の受診は自由である。通院は家族対応が基本だが、家族対応ができない場合は職員が支援している。受診情報は業務日誌に記録し、必要な場合は家族に連絡している。	

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師が来苑時に状況を説明、また、状況に変化があった時には電話で適切な指示を仰ぎ、必要時には訪問してもらう。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、出来る限り面会に行き病院関係者と情報交換を密にし、早期退院に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に変化があれば都度ご家族と連絡を取り、今後の方針について話し合っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を家族・本人に示し、説明して同意を取っている。また、昨年の外部評価の内容を踏まえ「看取り介護に関する指針」「緊急対応についての意見確認書」を新たに作成するなど体制が整ってきている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回～2回急変時の研修を行ない、定期的にマニュアルを見てイメージトレーニングをするように努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回～2回防火訓練を行ない、定期的にマニュアルを見てイメージトレーニングをするように努めている。地域への呼びかけ、協力体制を築いている。	隣接した老健施設と共同の年2回の夜間想定避難訓練に加えて、事業所独自の自主訓練を年1～2回行っている。隣接のマンション住人や連合町内会とは緊急時の対応について理解を得ている。救急救命訓練への定期的な参加や災害時の備品も用意されている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の人格を尊重した対応や声掛けを心掛けている。	利用者の呼びかけは「さん」付けを基本としている。気になる声かけがある場合は職員面談などで注意している。また、個人記録などは事務所スペースで管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意志を尊重し、自己決定が出来るよう配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望を優先するようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々人の意思を尊重している。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものを聞き入れながらバランスの取れた食事が提供できるよう心掛け、出来る限り一緒に準備や片付けを行っている。	利用者の能力に応じて盛り付けや配膳などを手伝っており、利用者と職員が談話しながら楽しく同じ食事を摂っている。ズッキーニやいんげんなど畑で採れた野菜も提供している。誕生会には出前寿司を頼むこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の状態に合わせた食事摂取量、水分量をチェック表を使い確保できるよう考慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用意して個々人の排泄パターンに合わせたトイレへの声掛けをし自立支援を行っている。	排泄チェック表で記録を取り、パターンを把握しながらタイミングを見て誘導している。トイレへの声かけは直接的な表現はせず、ついでにトイレに寄るようにしている。オムツやパッドの使用者も多いが、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分量、腹部マッサージ、便秘体操等を取り入れながら便秘対策に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員や業務の都合上時間は決まっているが、曜日等は個々人の意見を尊重している。	それぞれの利用者に週2回の入浴日を決めているが、他の曜日にも入浴可能で、全員が週2回以上入浴している。拒否が多い利用者は家族の協力を得ながら上手に誘導している。入浴剤を使い、楽しめるように工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の生活習慣や状況に応じて休息を設け、状況により足浴を取り入れ安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の病気と内服薬の内容を把握し、副作用等についても理解できるよう確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人に合った家事等の役割分担を提供しつつ、気分転換等の支援をしている。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 朝日)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の希望を把握し、対応できないことはご家族へ依頼している。	敷地内や畑を散歩したり近くの公園に散歩に行くほか、年間行事で花見やよさこい見学、夏祭り参加、サトランド見学などで外出している。冬場もショッピングセンターへの買い物などに出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんど金銭管理が難しいため、ご家族と相談のうえ希望に応じた支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の意志を尊重しながら支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、入居者の障害にならないように配慮している。また、季節を感じていただけるようカレンダーを利用し工夫している。	玄関入口の花壇には季節の花が美しく植えられており、入りやすい雰囲気である。共用空間には入居者の写真や手作りの大きな日めくり、季節の装飾、利用者の習字の作品などが飾られ、家庭的な雰囲気となっている。レクリエーションの品や雑誌などもさり気なく配置している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆとりのあるリビングで、自由に過ごせる雰囲気づくりに心掛けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、本人が安心できるよう工夫している。出来る限り家で使っていた物を持参して頂くようにしている。	居室には使い慣れた個人の家具や生活用品などが持ち込まれており、安心して過ごせる場所となっている。壁にも家族の写真など利用者が自由に飾り付けをすることができている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活が送れるよう、入居者が理解できない時には目印などで分かるよう工夫している。		



### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	150280089		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホーム 徳洲苑なえぼ		
所在地	札幌市東区北7条東18丁目105-23		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット 朝日」に同じ
--------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0150280089&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0150280089&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(ユニット・夕日・アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気を大切にします。地域に根ざし、豊かに暮らせる環境を大切にします。自分らしく健康に暮らせる生活を大切にします。を掲げ、家庭的な雰囲気とそれぞれの個性を尊重するよう努めています。いつでも確認できるところに理念を掲げている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	連合町内会とは交流を密にし、お互いの催し事には声を掛け合い交流が来ている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で毎月多種多様の講演会を開催し、その中で認知症を取り上げ、認知症についての理解を深めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し皆様からの意見をいただきサービスの向上に努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は連絡を取り合い、情報や助言をいただいている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で「切迫性・非代理性・一時性を理解し、必要に応じてカンファレンスを行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会があり防止に努めている。研修に参加した職員が、研修で学んだことを伝達し全員に周知するようにしている。あざ報告書を通じて不自然なあざが無いかを意識するようにしている。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階では該当者がいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分納得をして頂き契約をしている。また、疑問、質問が生じたときには納得していただけるよう対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時の会話の中から意見をいただき、反映させている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のスタッフ会議等で意見を求め反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議や個別面談を行ない、働きやすい環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容を吟味し条件に合った研修には極力参加できるようにしている。また、代表者が研修で学んだことを伝達できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全市や東区で行なわれる集会には出来る限り参加し、同業者との交流やサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ホームでの生活に早く慣れるよう、本人の希望や話を傾聴し、職員や他者との関係づくりに努め、安心して生活出来るよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初めにご家族と面談し、悩み、不安、要望等の把握に努め、信頼関係を築き良い関係ができるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人やご家族の意見を尊重しながら、出来る範囲内で対応するように努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事やその他の作業を、職員と一緒にすることでよい関係作りが築けている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族と情報交換を密にすることにより、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>いつでも、誰でも面会できる環境にあり、気軽に來ていただける雰囲気づくりを心掛けている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士協力して、会話やレクリエーション、作業等を通じて、信頼関係の構築に努めている。</p>		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてご家族をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から聞き取りをし一人ひとりの思いを重視するように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話やご家族からの情報を聞くなど、生活歴や性格等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意志を尊重し、自由な時間を過ごせるように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、他職種と情報交換を行い、本人が目標達成できるよう日々努力している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや記録、ケアプラン会議等で情報交換を行い、実践、介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	試験的なサービス内容など状況に応じ、日々変化できるケアプランの作成に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力を得ながら一緒に花壇づくりを行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得ながら、納得の下適切な医療を受けられるよう支援している。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師が来苑時に状況を説明、また、状況に変化があった時には電話で適切な指示を仰ぎ、必要時は訪問してもらう。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、出来る限り面会に行き病院関係者と情報交換を密にし、早期退院に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に変化があれば、都度ご家族と連絡を取り今後の方針について話し合っている。平成23年9月24日に初めて看取りケアを行なった。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回～2回急変時の研修を行ない、定期的にマニュアルを見てイメージトレーニングをするように努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回～2回防火訓練を行ない、定期的にマニュアルを見てイメージトレーニングをするように努めている。地域への呼びかけ、協力体制を築いている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			<b>高齢者を敬うよう意識することで、より良い態度や言葉遣いが自然と身についてくると思います。</b>		
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の人格を尊重した対応や声掛けを心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意志を尊重し、自己決定が出来るよう配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望を優先するようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々人の意思を尊重している。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものを聞き入れながらバランスの取れた食事が提供できるよう心掛け、出来る限り一緒に準備や片付けを行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の状態に合わせた摂取量、水分量を毎日チェック表を利用し確保できるよう考慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを行い清潔保持に努めている。性格上でできていない方もいます。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用意して個々人の排泄パターンに合わせたトイレへの声掛けをし自立支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分量、腹部マッサージ、便秘体操等を取り入れながら便秘対策に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースに合わせて支援しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の生活習慣や状況に応じて休息を設け、状況により足浴を取り入れ安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の病気と内服薬の内容を把握し、副作用等についても理解できるよう確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人に合った家事等の役割分担を提供しつつ、気分転換等の支援をしている。		

グループホーム 徳洲苑なえぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット 夕日)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の希望を把握し、対応できないことはご家族へ依頼している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんど金銭管理が難しいため、ご家族と相談のうえ希望に応じた支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意志を尊重しながら支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、入居者の障害にならないように配慮している。また、季節を感じていただけるようカレンダーを利用し工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆとりのあるリビングで、自由に過ごせる雰囲気づくりに心掛けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、本人が安心できるよう工夫している。出来る限り家で使っていた物を持参して頂くようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自分のペースで、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 徳洲苑なえぼ

作成日：平成 23年 12月 2日

市町村受理日：平成 23年 12月 12日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	外部研修に参加した者がレポート等で伝達するようにしているが、資料が上手く活用できていなかったため、全職員の共有化ができていない。	研修資料の保管方法を決め、全職員で共有できるようにする。	スタッフ会議等で発表の場を設ける。研修資料をファイルにまとめ、いつ誰が、何の研修に参加したか、わかりやすくする。	1年
2	23	利用者の新たに知りえた情報を介護記録や連絡ノートで共有できていたが、まとめて記録に残していない為、継続的なものにはなっていない。	ひと目で今までの情報と新しく得られた情報が区別でき分かりやすいようにする。	次回会議で記入方法(用紙)等の検討をし、共有化に向けて取り組む。フェイスシート、記入用紙等の立案をする。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。